

集え若者！ ☆島こいプログラム☆

隠岐の島町中央公民館

1 隠岐の島町中央公民館の概要

隠岐諸島は、島根半島の北北東約 80 km に位置し、4 つの島から成り立っており、隠岐の島町は一番北に位置しています。わが隠岐の島町は、「世界ジオパーク認定」に向け島を挙げて取り組んでいるように、自然豊かな島で、世界に誇れる地質、文化、植物、生物が存在しています。その中にある、隠岐の島町立公民館は、中央公民館を中心に、3 つの地区公民館で組織し、それぞれに行政職員が配置され、臨時職員を含め 14 名で日々公民館の仕事に取り組んでいます。

2 事業の概要

(1) 事業のねらい

隠岐の島町は、平成 16 年 10 月に西郷町、都万村、五箇村、布施村の 1 町 3 村が合併し、『まるい輪の中、心行き交う、やすらぎのまち』を目指してまちづくりに取り組んできました。しかし、合併から 8 年が経過した現在、町の人口は当時の 17,613 人から、平成 24 年 3 月末では 15,343 人と 2,270 人も少なくなりました。平成 23 年度の人口動態を見ると、亡くなられた方 265 人、町を出られた人（転出者から転入者を引いた数）179 人、生まれた子どもの数 108 人、1 年間に 336 人も町から人がいなくなったこととなります。このままでは将来、町が消滅してしまうかもしれません。当然、この対策として医療の充実、企業誘致による定住促進、子育て支援等々、様々な施策を講じてはおりますが、人口減少に歯止めがかかるには至っていないのが現状です。

特に少子化の進行は人口減少と相俟って加速度的に進んでいます。少子化に歯止めをかける一助として、平成 23 年度に未婚者の出会いの場の創出、いわゆる『婚活事業』に取り組み、メイク教室やタコ焼きパーティー、スポーツにローソク島遊覧、釣りにクリスマス会と年間を通し 11 回の婚活イベントを開催しました。しかし、狭い地域性もあり、人が集まらず、企画のマンネリ化や行き詰まり等々、参加者 10 人未満の会がほとんどで、とても成功とは言い難い状況でした。しかし 1 年間の事業活動を通して学んだこともあります。まず、公民館だけでは企画運営、人集めが困難であることから、地域の底力（地域力）、特に若い人の力を結集させる必要があること。また、結婚前提の会にとらわれず、本来の公民館事業の意義である「人が集う」という原点に立ち返って、若者が集まる仕組み作りが必要であることを強く感じました。そこで今回、町内各所の若者に参加を募り、実行委員会を立ち上げ、若い人による若い人のためのイベントを企画し、活動の活性化とコミュニティを促進し、地域力の醸成を図りながら様々な形での出逢いの場を創出することをねらいとしました。結果として、その延長線上にある結婚にも結びつけば嬉しいところです。

(2) 具体的な取組

(ア) 島こいプロジェクト実行委員会の立ち上げ

23年度婚活事業については、公民館がすべてのイベントの企画、運営を行っていましたが、今年度は、若者たちの企画力を活かし、自分たち（町内の企業・団体）が自ら楽しむためにやりたいことを企画、運営し、交流を図る目的で実行委員会を立ち上げました。実行委員会のメンバーは固定せず、誰もが入れる仕組みを作りました。その結果、実行委員の数も増え、良い交流ができました。

○実行委員会…平成24年7月6日：第1回実行委員会（立ち上げ）

7月19日、7月31日、8月9日、9月18日、10月30日 【計6回開催】

(イ) 実行委員会ミニイベント

実行委員会メンバー並びにその友人、知人参加のもと、交流イベントを開催しました。その中で、若者の本音（やりたいこと等）を聞くと共に、実行委員会への入会を図りました。

「たこパーティー」8月11日（土）／隠岐島文化会館集会室／32名参加

生地作りからたこ焼きを焼くまで、気軽に楽しめて、自然と男性、女性が協働作業でき、交流が図れました。



「2012 イルミネーションを飾ろう&鍋パーティー」12月2日（日）／隠岐島文化会館内外 29名参加

隠岐島文化会館をきれいに飾ることでの“居場所づくり”“きっかけづくり”の目的で行いました。このイベントも男性、女性が自然と助け合いながら交流が図れました。また、夜の交流会でも、鍋の材料の買い出しや下ごしらえを、参加者みんなで行い、良い交流の場となりました。



(ウ) 若者が集うイベントの開催

隠岐の島町では、若者を中心としたイベントがあまり開催されていないことから、若者が気軽に楽しめるイベントを島こい実行委員会が中心となって企画、運営を行いました。島内外からたくさんの若者が参加され、交流が図れました。

集え若者！「島友フェスタ」 9月22日（土）／隠岐島文化会館内外／入場者数：447名

Sea-1 グランプリ（海の食材を使用した屋台）、プロ・アマチュアバンド、〇×クイズ、ダーツバー、スイーツコーナー、恐怖戦慄の迷路、キッズコーナー（託児所）

Sea-1 グランプリは、隠岐はもちろん、日本でも今までに開催されたことがなく、今回、チャレンジしました。イメージとしては、屋台と街コンを合わせた“屋台コン”として行いました。隠岐内から、海の食材を使って、工夫を凝らした11団体が出店、おいしい食べ物を作っていました。参加者からも好評で、来年も開催してほしいとの声が上がりました。その他の催し物として、女性に人気だったスイーツコーナー、絶えず参加者がいたダーツコーナー、お化け屋敷と迷路を組み合わせた恐怖戦慄の迷路、隠岐ならではの問題で盛りあがった〇×クイズ等、参加者の方に喜んでもらえたイベントになりました。また、ポスターの作成からイベント運営に至るまで、島こいプロジェクト実行委員会が中心となって精力的に活動を行った結果、とても良い出会いの場の創出、交流ができたと感じました。



スイーツコーナー

ダーツバー

Sea-1 グランプリ表彰

3 事業の成果と課題

(1) 事業の成果

たくさんの参加者の交流が多くのお会いを生み、若者層への意識や行動力が高まり、その力が地域力アップに繋がると考えます。今年度は、婚活を全面に出さないことや、大規模な企画によって参加者が集まりやすくなりました。人が集まらなければ何も始まりません。そうした意味でも、集まりやすい環境づくりが少しずつ成果として表れてきていると思います。また、実行委員会メンバーも少しずつ増え、実行委員会内で交流ができているのも事実です。それこそ交流の第1歩です。最初の頃は、実行委員会内でも意見が出なくて、しばしば事務局案が採用されていましたが、会を重ねるごとに活発な意見等が交わされるようになってきています。また、実行委員会を楽しみにしている会員も出てきたことがもう一つの成果です。

(2) 事業の課題

残念ながら隠岐には婚活ブームがまだ来ていません。どうしても婚活を全面に出したイベントは若者に敬遠される傾向があります。焦らず、少しずつ成果が出るように、前へ（婚活から結婚へ繋げるよう）進めていきたいと思います。

私たち公民館職員は、県内では稀ですが、行政職です。何年かしたら異動があります。異動になって、職員が代わってもそれっきりの事業にならないように継続していきます。

現在、実行委員会の事務局は、公民館（行政）にあります。何年かかるかわかりませんが、いずれは行政から離して、若者たちが中心となって実行委員会を運営できるようにサポートしていきたいと考えています。

4 今後の方向性

今年度もあと1回 Longing for spring コンサート（音楽イベント3月16日開催予定）を行います。どうしたら参加者が増え、盛り上がるイベントになるのか。また、春を呼び、参加者を呼び、そしてみんなが元気になれるようなイベントを開催できるように実行委員会を中心に検討中です。

今、実行委員会の委員たちは、やる気になっています。そして、やる気という名の“風”が、微風ながら吹いています。その微風が心地よい強風に変わるよう、事務局としてサポートしていきたいと考えています。隠岐特有の気質やデリケートな分野なので、様々なことに考慮して慎重かつ大胆に時間をかけて、島こいプロジェクト実行委員会のメンバーと一緒に「人（若者）が集う」イベント等を展開していきたいと考えます。そうした流れが構築されれば、若者層の活動が活発になり、地域力醸成はもとより、こうした交流や出会いが結婚のきっかけとなり、最終目標でもある少子化対策に繋がっていくことを願っています。